

日本感情心理学会の会員の皆様へ

2022年4月より日本感情心理学会の理事長に就任いたしました関西学院大学の有光です。ここ数年大変なことがありましたが、会員の皆様が無事でいらっしやって、こうしてご挨拶できることを、心より嬉しく思っています。

今世界中で全く先が読めない状況となり、不安や恐怖、怒りと悲しみ、嫌悪の連鎖が起っています。COVID-19の大流行だけでなく、あろうことか侵略戦争が始まり、社会経済活動だけでなく、私たちの感情に大きな影響を与えています。私たちは、様々な出来事によって揺れ動く感情の傷つきやすさに直面しました。一方では、困難に立ち向かうときの感情の力強さ、人々のつながりを生み出す感情の美しさも感じる瞬間もございました。こうした困難に遭遇したことによって、私たちにとって感情がどんなときにも必要であること、またそれを研究する重要性を再認識いたしました。感情心理学がさらに注目され、活用される時代が来たのだと思います。会員の皆様の研究やご見識が、これから益々社会から必要とされるようになると確信しています。

本学会は、本年度で設立30周年となります。1992の設立以降少しずつ活動の範囲を広げ、現在では「感情心理学研究」「エモーション・スタディーズ」の刊行、年次大会とセミナーの開催、メーリングリストの発行などを行っています。このように精力的な学会活動を行うことができたのは、会員の皆様が精力的に研究を続けられ、また歴代の役員の方の先生方のご尽力おかげだと感じています。心よりお礼を申し上げます。また、会員の皆様と一緒に学会の30歳を祝福したいという気持ちでいっぱいです。

さて、学会で30歳というとまだまだ「ひよっこ」でまだまだ伸びしろがある、そんな年齢でしょうか。そこで、こういった方向性で成長するのが良いのか考えてみました。1つは世界を見渡すと affective science という分野が登場していますので、何らかの形で会員の皆さんに知ってもらう機会があったほうがよいと思っています。また、成長株たる若手研究者を支援しスポットライトを当てることももっと必要でしょう。国内では公認心理師という初の国家資格ができ、各大学で感情心理学を学べるようになりました。こういった内容を教えるべきか、学会として何らかのアプローチがあるべきかもしれません。これらは一例で、この学会にはポジティブな可能性がたくさんあります。どんなことでも良いので、会員の皆様からのご意見をいただければと思います。

思い返すと、私は第3回大会が本学会との出会いでした。大学院の先輩より「あがり」を研究するなら当然行くべきと言われての学会初参加でした。学会では、多くの感情研究に触れることができ、こんなにすごい研究がたくさんあるのか！と感動したのを覚えています。

その 1995 年の大会以来 27 年間、この学会で感情研究について学び、好きな者同士でディスカッションするのを楽しませていただきました。これからも皆様と一緒に感情のことを語り合っ、研究を行い社会に発信していきたいと思っています。今回大きな役割を与えていただきましたので、恩返しをする気持ちで微力を尽く行く所存です。

世界が平和で、私たちがこれからも本学会に集い、学び、励まし合い、希望をもてますように。

2022 年 4 月 1 日
日本感情心理学会
理事長 有光 興記